



（写真）マドゥロ大統領 Telegram “マドゥロ大統領 国会に憲法改定案を提出、90日以内に改定案完成か”

2025年2月14日（金曜）

政治

- 「[米国 グアタナモ基地にベネ不法移民を収容](#)」
- 「[ウルグアイ新大統領 マドゥロ大統領を認識か](#)
～現大統領 マドゥロ大統領の就任式招待拒絶～」

経済

- 「[カラカス証券指数 25年に入り36.3%増](#)」
- 「[スリア州産油量 過去2年で増加も目標の半分](#)」
- 「[電子商取引の7割は携帯電話を使用](#)」
- 「[副大統領 トルコとエネルギー分野の協力強化](#)」

社会

- 「[Las Mercedes 地区の住宅で火災](#)」

25年2月15-16日（土・日）

政治

- 「[マドゥロ大統領 憲法改定案を国会に提出](#)
～改定対象の憲法条文は約80条～」
- 「[ゴンサレス候補 CPI カーン判事と面談](#)」
- 「[ゴンサレス候補 米はベネズエラの問題を理解](#)」

経済

- 「[Chevron 今後7年間ベネズエラ産油量増加](#)
～国内産油量の約30%は外国企業が産出～」
- 「[ベネズエラ国内コーヒー販売価格が安すぎる](#)」

社会

- 「[カラカスで CAF マラソン開催](#)」

2025年2月14日（金曜）

政治

「米国 グアタナモ基地にベネ不法移民を収容」

2月14日 トランプ政権は、米国に留まっているベネズエラ不法移民100人超をキューバにあるグアタナモ米軍基地に収容した。

実際のところベネズエラ不法移民のグアタナモ基地送還は2月4日から始まっていたようだ。

トランプ政権は、この100人超のベネズエラ不法移民について「犯罪者 (criminales)」と説明しているが、ベネズエラ系ギャング「Tren de Aragua」の構成員なのかどうかは分かっていない。

ただし、「The New York Times」は、グアタナモ基地に収容されたとされる53名の氏名をリストとして公表している。

「FEF 通信」は、このリストに載っている人物（4人）の家族にインタビューを実施。家族は拘束者の無実を主張している。

また、国境警備隊は拘束された4人について「Tren de Aragua の構成員と思われるタトゥーがある」と説明しているようだが、家族によると対象者はそのようなタトゥーはしていないという。

なお、EFE 通信の調べによると、この4人のうち3人は過去に犯罪履歴が無かったという。ただし、この4人はテキサス州収容所にて警備員に暴力をふるったと訴えられている。

「ウルグアイ新大統領 マドゥロ大統領を認識か
～現大統領 マドゥロ大統領の就任式招待拒絶～」

ウルグアイの現地紙「El País de Uruguay」は、3月1日に予定されている Yamandú Orsi 次期大統領の大統領就任式に関して、Luis Lacalle Pou 現大統領がベネズエラ、キューバ、ニカラグア国家主席へ招待状を送ることを拒否したと報じた。

同紙によると、Yamandú Orsi 新大統領はマドゥロ大統領、ディアス・カネル国家評議会議長、ダニエル・オルテガ大統領を招待しようとしていたという。

つまり、Orsi 新大統領はベネズエラ、キューバ、ニカラグアの現政権を政府と認識することになると理解できる。

2025年1月4日 ゴンサレス候補はウルグアイを訪問し、Lacalle 大統領と面談。その際に Lacalle 大統領は、ゴンサレス候補がベネズエラの当選大統領であるとの認識を示していた。

Orsi 新大統領は、2024年11月24日に行われた大統領選の決選投票で、対抗候補の Álvaro Delgado 氏を僅差で破り当選した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1147](#)」）。

Orsi 新大統領は、故チャベス元大統領の盟友であるホセ・ムヒカ元大統領の派閥に属する人物。

現在、ムヒカ元大統領とマドゥロ大統領の関係は良好とは言えないが、左派政権としてマドゥロ政権の実効支配を認識する方針のようだ。

なお、ウルグアイの大統領任期は5年なので、Orsi 次期大統領の任期は2025年3月1日～2030年2月末まで大統領を務める予定。

経 済

「カラカス証券指数 25年に入り36.3%増」

2025年に入り「カラカス証券指数 (IBC)」が36.29%増と大きく上昇している。

IBC は日本でいう「日経平均株価 (Nikkei225)」のような存在である。

2月14日時点の IBC は162,709.56ポイントとなり、2025年年初から43,328.9ポイント（36.29%）増加したという。

特に2月10日～14日の週の株価の上昇は大きく、2月10日時点で155,191.92ポイントだったが、2月14日には162,709.56ポイントとなり、5日間で7,517.64ポイント（4.85%）増加した。

IBC を構成する株式の中で、この一週間の値上がり率が特に大きかったのは、投資会社「Venealternative Clase B」（先週比22%増）、金融機関「Mercantil Servicios Financieros Clase A」（同16.35%増）、塗料会社「Corimon」（同11%増）、証券取引所「Bolsa de Valores de Caracas」（同9.33%増）、畜産系食品メーカー「Protinal」（同8.97%増）だった。

取引額が大きかったのは、ラム酒メーカー「Ron Santa Teresa」（約 Bs.4238万）、金融機関「Banco Nacional de Crédito」（約 Bs.2091万）、金融機関「Banco Provincial」（約 Bs.344万）、金融機関「Mercantil Servicios Financieros Clase A」（約 Bs.191万）、投資会社「PIVCA Clase B」（約 Bs.152万）だった。

「スリア州産油量 過去2年で増加も目標の半分」

前号「[ベネズエラ・トゥデイ No.1178](#)」で紹介した通り、OPEC は2025年1月のベネズエラの産油量が日量100万バレルを突破したと発表した。この数字はベネズエラ石油省の報告をベースにしている。

一方で、OPEC が同時に公表している「第3者専門家調べ」では25年1月のベネズエラ産油量について、日量89.2万バレルとしており、両者には大きな開きがある。

この差について、ベネズエラ石油省の報告は、アスファルト・ナフサなどの石油製品が含まれており、第3者専門家調べにはこれらの製品が含まれていないことが理由とされる。

いずれにせよ、この2年間ベネズエラの産油量は増加傾向にあり、ベネズエラの歴史的な産油地域である西部地区（マラカイボ湖、西部湾岸、トゥヒージョ Sur de Lago 地区）の産油量も増加傾向にある。

現地メディア「Tal Cual」によると、西部地区の2025年1月の産油量は日量27.1万バレルで、2022年2月の日量17.7万バレルから大きく回復しているという。

ただし、マドゥロ政権は、2022年12月に「2025年中に西部地区の産油量を日量45.5万バレルまで拡大する」との目標を発表しており、現在のところ当時の目標の半分くらいしか達成していないことになる。

「ベネズエラ石油商工会 (CPV)」の代表は、「現在休眠中の鉱区カテゴリー2を民間セクター主導で稼働させれば、目標達成は可能」との見解を示している。

「電子商取引の7割は携帯電話を使用」

「ベネズエラ電子商工会（Cavecom-e）」の Richard Ujueta 代表は、ラジオのインタビュー番組に出演。現在のベネズエラの電子商取引の状況について言及した。

Ujueta 代表によると、インターネットの通信環境が向上したことで電子商取引の約7割は携帯電話を利用して行われているという。

また、2025年についても携帯電話の通信環境（インターネット速度・技術的な能力）の向上を理由に、携帯電話を通じた商取引が増えるとの見通しを示した。

「副大統領 トルコとエネルギー分野の協力強化」

インドを訪問していたデルシー・ロドリゲス副大統領（兼石油相）は、トルコ（イスタンブール）に移動。

トルコにて、Alparslan Bayraktar エネルギー相と会談し、エネルギー分野での両国の協力強化について合意した。

Bayraktar エネルギー相は、自身のソーシャルメディア・アカウントにて「ベネズエラのデルシー・ロドリゲス副大統領と面談した」「会合にて、両国が昨年交わした石油・天然ガス・鉱物分野での協力協定について意見を交わした」



（写真） Alparslan Bayraktar エネルギー相 X

「我々はロドリゲス副大統領とこの分野における関係強化を早急に行うことで合意した」と投稿した。

社 会

「Las Mercedes 地区の住宅で火災」

2月14日 カラカス的高级住宅街 Las Mercedes 地区で大きな火災が発生した。場所は診療施設「Policlinica Las Mercedes」の近く。

火災が発生したのは午後9時。

消防隊、警察らが駆け付け消火活動を開始し、午後11時30分ごろに鎮火した。

カラカス消防署の Pablo Palacios 隊長によると、火災が発生したのは100平米の建物だったという。また、この火災による死者・負傷者はいなかったという。



（写真） @RCamachoVzla

2025年2月15日～16日（土曜・日曜）

政治

「マドゥロ大統領 憲法改定案を国会に提出
～改定対象の憲法条文は約80条～」

2月16日 マドゥロ大統領は、憲法改定案を国会に提出。憲法改定検討委員会に対して、90日以内に憲法改定案を完成させるよう求めた。

現在のところ具体的な改定案は公表されていないが、マドゥロ大統領の説明によると、約80の憲法条文が改定対象になっているという。

また、マドゥロ大統領は、今回の憲法改定について
「直接民主主義の確立と拡大」
「ボリバル思想を基軸とした価値観による新たな社会の創造」
「他国に依存しない自給型の多様な経済モデルの構築」
「政治・司法的な観点から憲法を現在に準じた形に修正する」
の4原則をベースに行ったと説明している。

「直接民主主義の確立と拡大」というのは、マドゥロ政権が勧めているコミューンを中心とした政治体制の確立であることは間違いない。

コミューンは故チャベス元大統領が提唱した行政単位の1つだが、現在、ベネズエラの憲法には「コミューン（Comuna）」という記述は無く、コミューン単位での統治は憲法違反との指摘がある。

この問題を今回の憲法改定を通じてクリアしようとしていると思われる。

「ボリバル思想を基軸とした価値観による新たな社会の創造」は、「自国主権」の概念を憲法でより具体的に盛り込む目的があると思われる。

具体的には、ベネズエラの問題に諸外国の介入を求めるような活動は「政治活動」ではなく「テロ行為」と認識するなど、マドゥロ政権のボリバル思想に基づいた価値観を憲法に加えるのではないだろうか。

「他国に依存しない自給型の多様な経済モデルの構築」は、米国の経済制裁を受けて、ベネズエラの伝統的な経済構造を変える必要性からの改定と思われる。

「政治・司法的な観点から憲法を現在に準じた形に修正する」については、「ボリバル思想を基軸とした価値観による新たな社会の創造」と同じ問題意識から来ていると思われる。

憲法改定検討委員会は、マドゥロ大統領が指名した人物で構成されており、タレク・ウィリアム・サアブ検事総長がトップを務める。

その他、マドゥロ大統領の妻シリア・フローレス議員、デルシー・ロドリゲス副大統領、ホルヘ・ロドリゲス国会議長、カリサリア・ロドリゲス最高裁判長、エルビス・アモロソ CNE 代表、ウラディミール・パドリーノ・ロベス国防相らで構成されている。



（写真） VTV

「ゴンサレス候補 CPI カーン判事と面談」

2月15日 米州外遊を終えたエドムンド・ゴンサレス候補は、ドイツのミュンヘンにて「国際刑事裁判所（CPI）」のカリム・カーン判事（下写真右の男性）と面談を実施。

CPI が行っているマドゥロ政権による人権侵害の調査について意見交換を行った。

なお、トランプ大統領は、CPI のカーン判事を制裁対象者に指定する大統領令を公布したばかり。

これにより、カーン判事は米国入国を禁止され、カーン判事が米国内に所有する資産は凍結される。

カーン判事は、2024年5月にパレスチナ自治区ガザでの戦闘をめぐりイスラエルのネタニヤフ首相らに戦争犯罪などの容疑で逮捕状を請求。逮捕状は同年11月に発行された。イスラエルを支持する米国の方針に背いたことが制裁の理由とされる。

つまり、ゴンサレス候補は、トランプ政権が敵視するカーン判事と面談したことになる。これに何らかの意図があるのか、あるいは偶然なのかは不明。



（写真）@EdmundoGU

「ゴンサレス候補 米はベネズエラの問題を理解」

2月15日 エドムンド・ゴンサレス候補は、ミュンヘンで開催された「安全評議会」に出席。トランプ政権との関係について言及した。

「我々はマリア・コリナ・マチャド（MCM）と共にマルコ・ルビオ国務長官と意見交換を行った」「意見交換は率直なもので、長時間にわたった」「我々は正しい方向に進んでいると思う」「米国政府は、ベネズエラの問題が何かを理解しており、何をしなければいけないかを知っている」「近いうちにそれが実行されることを願っている」とコメントした。

また、1月10日に大統領就任を宣誓しなかった件について

「当時はベネズエラに行く条件が整わなかった」「もしベネズエラに帰国したら、私の娘婿のように逮捕され、刑務所に収容されていただろう」

「なので、私はベネズエラに行かなかった」「私は800万人のベネズエラ国民の信託に従い、ベネズエラに帰国し、目的を達成することを望んでいる」とコメントした。



（写真）@EdmundoGU

経 済

「Chevron 今後7年間ベネズエラ産油量増加
～国内産油量の約30%は外国企業が産出～」

米国メディア「Bloomberg」は、トランプ政権とマドゥロ政権の政治的な緊張緩和を受けて、Chevron がベネズエラでの産油量を拡大するための7年計画を作成したと報じた。

Chevron は、ベネズエラ国内の合併会社 Petropiar の産油量を急激に拡大しており、現在は日量14.3万バレルを産出しており、2018年3月以降最も多いという。

他、Chevron は合併会社 Petroboscan でも産油活動を行っており、25年1月の Petroboscan の産油量は日量10.1万バレルになるという。

「Rapidan Energy Group」の Fernando Ferreira 地政学リスク部長は、「トランプ政権の最優先課題は移民問題の対応であり、マドゥロ政権への圧力強化ではない」と指摘した。

また、現地経済メディア「Bancaynegocios」によると、現在のベネズエラ国内の産油量のうち約30%は外国企業によるものだという。

特に Chevron が占める割合は圧倒的に大きい。

「Ecoanalitica」によると、Chevron はベネズエラ国内の産油量の24%を占めており、残りの6%は「Repsol」や「Maurel & Prom」によるものだという。

「ベネズエラ国内コーヒー販売価格が安すぎる」

「全国農業連合会（Fedeagro）」でコーヒー分野を担当している Vicente Pérez 部長は、ベネズエラ国内のコーヒー豆販売価格の価格統制について苦言を呈した。

Pérez 部長によると、ベネズエラのコーヒーの販売価格は国際価格の半分以上だという。

コーヒー農家は価格が安すぎるため赤字を出しており、事業継続が困難になっているとの見解を示した。

社 会

「カラカスで CAF マラソン開催」

2月16日 カラカスで CAF マラソンが開催された。

CAF マラソンは毎年この時期に行われる恒例イベントで同日はカラカス全体に交通規制が敷かれ、多くの人々がマラソンを行う。公式発表によると、今年は6000人超（プロアスリートは17カ国から39人が参加）がマラソンに参加したという。

42キロを走るコース（男性の部）では、ブラジル人の Johnatas de Oliveira Cruz 氏が優勝（2時間18分25秒）、メキシコ人の Luis Vásquez Vega 氏が準優勝（2時間21分43秒）。

42キロを走るコース（女性の部）では、ベネズエラ人の Magaly García 氏が優勝（2時間36分44秒）、なお、García 氏は2度目の優勝になる。2位はコロンビア人の Lina Pantoja 氏（2時間37分19秒）だった。



以上